第 2014-44 号

恵みと真理のニュース

2014 年 11 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

事業に与えられた苦しみを 神様が災いを転じて福となしてくださいました

年取っている多くの方のほとんどが偶像崇拝したように私も偶像崇拝する家庭で嫁に来て一ヶ月の二回づつ舅姑と家の大人達が熱心に祭祀をする姿を見ながら生きて来ました。結婚して５年ぶりに親と離れてアンヤンで住んで旦那の職場によって 1985 年からアンサンで住むようになりました。

ある日は子供の友達 の母を道に会いましたが、私の子が痛い姿を見てその方が子の痛いとことに手をだして祈ってくださる姿は珍しいでした。その方は恵みと真理教会の区域長でした。その方に伝道され教会に通い始めました。その当時まだアンサンに聖殿が立てられてなくて教会のバスでアンヤン聖殿に行って礼拝を捧げました。初めは礼拝をささげる事も恵みである事を知らなくて遠いと不平をして信仰が成長しなかったです。義務感で教会に通い区域長の職分を受けても職分さえも疎かにしました。しかし、時間が経って御言葉に恵まれ神様の驚くな摂理と大きい愛を悟って日々信仰も成長し始めました。旦那は 25 年間通っていた職場で様々な事で葛藤で苦しんでいましたが、どんな準備もなく会社を辞めてしまいました。そして、義弟と全く経験もない分野の事業を始めました。資金が足りなくて家を担保としてお金を借りて大きいお金を設備などに投資しました。しかし、まもなく IMF の状態になり投資した全ての金を突然全部なくなりました。昔の言葉で“後ろで倒れても鼻が壊す”という言葉のように全てがめちゃくちゃになり始めました。

保証したことであちこちで返金を迫られ、収入はないのにもう仕入れた品物を支払うものか、たまった人件費で大変でした。外で住むしかない状況になりました。

私の弟が運営する工場の一つの場所を借りて私が以前やった自動車の部品に関連する加工する仕事を再び始めました。周りには信じる人はなくただ神様に委ねて仕事をしました。捧げなかった家庭礼拝も毎日熱心に捧げ私の夫婦は切に神様の助けを求めました。区域長達も区域長の祈りの時に私達のため祈ってくださり自分のことのように祈ってくださいました。

状況では事業が忙しくて教会で与えられた首区域長の職分を担えられない状況でしたが真面目で忠誠で神様と教会を仕えると祝福を与えてくださることを信じて従順する心で礼拝を捧げ職分を忠実に奉仕しました。すると神様は伝道の実りも多く実られるようにしてくださいました。初めで区域長のセミナで伝導賞も受けました。

熱心に礼拝して教会を仕え職分に忠誠すると神様は私の事業場にも祝福も与えてくださいました。受注する物流も増え続けられもっと大きい所で移しました。ある日は、工場の天井で付けられていた重い部品の鉄板が私の頭の上に落ち大きい怪我をし死ぬところでしたがその瞬間神様の助けで危機を逃れた時もありました。続けて注文を受け物流が増え他の建物で工場を立ってましたが建物の主人が不渡りする時もありました。競売を通して他の 人が建物を落札を受けて、私どもはこれまでの工場に投資したのをすべて損をしてそのまま工場を空けなければならない状況になりました。教会の牧師と伝道しが訪問して来て祈ってくださり相変わらず主の愛で主に委ねる人に全ての事に協力して善を与えてくださっる神様の恵みと愛の御言葉で私を慰めてくださいました。落胆しなく新しい力を出せるように励んでくださいました。

その後競売は最初なりとても安い値段で私達がその建物を買うようになりました。神様は私の祈りを聞いてくださいり、全ての事に摂理して事業の災いを転じて福と成してくださいました。 “神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。”（ローマ書 8：28） “だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。” （ヘブライ人の手紙 4：16）ハレルヤ！今まで私の家族と事業場に驚く恵みを与えてくださった神様に感謝を捧げます。娘と息子が全てが幸せで主を仕える家庭を成し遂げる祝福の恵みに感謝を捧げます。愛しもっと熱心に仕え奉仕するように職分をくださった神様の恵みに感激して感謝します。 娘の夫婦にまだ子供がいないけど熱心に祈っているからまた神様が答えてくださる事を信じます。そして私の事業場が神様の発展して繁盛するように神様に祈ります。

主が来られる日まで相変わらず主を愛しもっと熱心に主と教会を仕え献身するように生きます。

［信仰コラム］

あなたはこのような信念がありますか?

〝だから、皆さん、元気を出しなさい。万事はわたしに告げられたとおりに成って行くと、わたしは、神かけて信じている。〟（使徒言行録 ２７：２３～２６）

本文のお言葉は、キリスト人にいなければならない信頼が何であり、その信頼によっている大胆さと平安がどれほど大きいかを明らかに見せてくれています。使徒行伝 27 枚と 28 枚は使徒パウロが乗った船が大きな波風を会った事実とそのような中で使徒パウロが信じることで対処して出た話を扱っています。

福音を伝え、獄に閉じ込められるようになったパウロ使徒が他の囚人らと共に船にカイサリャでローマに護送されるとき、’ユラグルロ’という狂風が吹きつけ、その激しい風と波によって船と船員たちはなすすべがなりました。すべての人々が恐怖と絶望に震えました。ところが、パウロの心霊は、平安と大胆さと願いと確信に満ちていました。パウロは死の恐怖にさいなまれて,疲労こんぱいした人々のうち、立って叫びました。〝皆さんよ、私がもう皆さんに薦められたら元気を出せ。あなたがたの間誰も命を失わず、ひたすら船を失うのだ。私が属していて、私が仕える神の使者が昨日の夜に私のそばに立って言うには’パウロ、恐れるな。君が皇帝の前に立つべきだと思うし、また、神様があなたと一緒に航海するこの多くの人たちを全て君に任せた。’としたのだから、そこで皆さんよ安心しなさい。私は私におっしゃった通りになるだろうと神様を信じておこう〟。、パウロがこのように行動できる理由がすべての人に向かって叫んだ彼のことばによく現れています。その核心は 3 つです。

第一に、〝私は神様に属した。〟という信頼です、イエスキリストを信じなければ得ることになる変化の中の一つが所属の変化です。神様の寶血で罪洗い受けて聖霊として生まれ変わるば、神様の子供になって神様に属することになります。サタンは神様に属した者を害する恐れがありません。人は誰でも悪い者、サタンに属しているかなければ、神様に属しているか二つの中で一つです。神様に所属したという意味はあまりにも莫大て全部言葉で言い表すことはできません。神様に属した人は神の国の市民です。神様の威光と保護が受けます。そこで神様に属した人はどのような状況でも落胆したり、怖がることないです。

第二は、神様を仕えることを大変な誇りと特権でここは信頼です、パウロはいかなる状況でも人々が神様に仕える信仰を持つように誘導する機会としました。カイサリャに拘禁されている間、総督ベルリクスと総督の妻に、イエス様を信じている信念を述べました。また、後任のベースド総督とアグリプパ王が神様を仕えるようにようにしようと努めて福音を伝えました。また、難破されていく船の中でも、自分が仕える神様について話しました。〝私は神様に仕えておこう。〟は、言葉よりももっと誇らしいて栄光なことはありません。

第三は、神様の言葉を寸毫も疑わない信頼です。何日間かしてきて,星が見えませんでした。嵐は留まることを知らずに吹いてきて波は船を飲み込むように押しよせています。船は難破直前になりました。、パウロはこのような状況でも神様が言った言葉をそのまま信じました。真の信頼は最悪の場合にも神様のお話どおりになることを確信することです。私たちは欺くことと、偽りが満ちた世の中に住んでいます。人は偽りも神様はうそをつかないです。うその父であるサタンは人を魅惑して永遠の地獄に案内します。サタンの国は偽りの上に建てられたので崩壊することです。しかし、神様の国は真実委に建てられており、永遠無窮します。キリスト人の信頼とは、神様の言葉に対する信頼であり、そのお言葉どおりになることを信じている信頼です

皆さんに神様に属したという信頼、神様に仕えながら生きることを自慢と特権でここは信仰、神様がおっしゃった通りになることを信じている信念があるので、いつも望みを持って安らかて大胆な気持ちで行うことを望みます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

卓越な考えで生きて行きましょう

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

その人の考え方は彼の品性を現わします．知識と経験が積もるほど考え方も発展するが必ずそうなことではないです．学んだのが少なくとも思う態度の卓越な人がいるかと言えばたくさん学んでも考えが幼稚とか劣等な人がいます．考えが卓越ならば対人関係や仕事を処理する能力もすぐれます．誰も思う方法を学ばなければなりません．“考えが行動を生んで行動が習慣を生んで習慣が人格を形成する．”という格言があります．今日の自分の考えが明日の自分の人格になって生の現実になるということを私たちが分からなければなりません．そしてこれを積極的に適用しなければなりません．聖書は思う事の重大さと同時に卓越に思う秘訣を啓示しています．　今日はこのような事実に対してよく見ます．

第一、思う事の重大さに対してよく見ます．

聖書はおっしゃるのを **“彼は心のうちで勘定する人のように、「食え、飲め」とあなたに言うけれども、その心はあなたに真実ではない。”（箴言 23:7)**と言いました．　また **“地よ、聞け。見よ、わたしはこの民に災をくだす。それは彼らのたくらみの実である。彼らがわたしの言葉に気をつけず、わたしのおきてを捨てたからである。”（エレミヤ書，6:19)**と言いました．聖書ヨブ記には災いを呼び入れる考えに対する奥深い教訓があります．ヨブは財産がすごく多かったし七息子と三人の娘と共に裕福な生活をしました．ところで彼が一瞬にしもべたちと獣たちを皆失ったし子たちもいっぺんに失いました．それだけではなくヨブの全身が悪い吹き出物ができて苦痛の中に過ごすようになりました．そういうところにヨブは一つ驚くべきな悟りを得ました．**“わたしの恐れるものが、わたしに臨み、わたしの恐れおののくものが、わが身に及ぶ。”（ヨブ記 3:25)**．ヨブはある日からもし彼に恐ろしい災難が迫って来ないかという考えをしました．その考えはますます具体化されたし彼はそういう考えに深く落ちて入りました．いよいよその考えが現実化されてしまいました．

聖書に記録されたお言葉を肝に銘じなければなりません．**“油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。”（箴言 4:23)** しました．心と言うのは何ですか？心はどこにありますか？心が心臓にあってあるいは腹の中にあるという主張などがありました．今日には心が脳にあると確信を持って言います．神経科医者さんたちと解剖学者たちの努力で脳に対する秘密が一つずつ解けながら脳が感覚，運動，認識，記憶，判断，考え，感情，性格形成などに直接的な関連を持っているということを確認するようになりました．**箴言 17 章 22 節に “心の楽しみは良い薬である、たましいの憂いは骨を枯らす。”** と言いました．

人が怒るとかひどいストレスを受ければ脳で“ノールアドレナルリン”という物質が分泌します．このホルモンは毒性があってしばしば怒るとかストレスを受ければ老化が促進されて寿命が短縮されます．一方に心が楽しければ“ベータエンドルピン”が分泌します．エンドルピン分泌は疾病に対する身の免疫力を増進させてくれます．神様は人が楽しい考えを心に満たせば有益なホルモンが脳で生産されるように作ったから “心の楽しいことは良薬”と聖書に記録しました．聖書はこのように私たちの心の考えが及ぶ影響力と範囲が非常に大きいという事実を知らせてくれます．考えは私たちの品性と判断力と健康に影響を及ぼします．災いを呼び入れるようにして助ける神様の手助けをつかむようにします．

第二、卓越な考えをする秘訣をよく見ます．

卓越な考えをしようとすれば考えが卓越な人を接触して付き合うように力をつくさなければなりません．しかしそういう人のみを付き合うことはできないことが我々の現実です．このような現実で私たちが考えを卓越にさせる方法があります．卓越な考えの中に一番卓越な考えは神様の考えです．今日の本文に **“わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い”（イザヤ書，55：８～９）**と言いました．聖書に記録された偉人たちと勇士たちが持った卓越な行動は彼らが持った卓越な考えから始まりました．彼らの卓越な考えの出処と根源は神様のお言葉でした．ヘブル人への手紙 11 章に羅列された信仰の偉人たちに関する記録をよく見れば彼らは自分の心の中に神様の考えでいっぱい満たしました．自分の考えが神様の考えと違えば容赦なく自分の考えを投げ捨てました．

信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている。（ヘブル人への手紙，11:4)．カインは自分の考えどおり丹念にお供えを準備して祭祀を差し上げました．しかしアベルは神様が啓示なさったとおりお供えを差し上げました．神様がカインとそのお供えは受けなかったが，アベルとそのお供えは嬉しく受けました．アベルのお供えがカインのお供えよりもっとめぼしいこととかもっと真心が入って行くことだからではないです．アベルはただ神様の考えどおりしたからです．

“信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った。”（ヘブル人への手紙，11 :8)．しかし遂にガナアン地に入りました．アブラハムは独り子イサクを燔祭で差し上げなさいという神様の命令を受けて独り子イサクを連れて黙黙と神様が指示する山に行って祭壇を積んでイサクを縛り上げて祭壇の上に上げました．神様が彼の行動をそこで止めるようにしました．

神様は雄羊でイサクの代わりをしてお供えで差し上げるようにしました．そして神様がおっしゃいました．

“「主は言われた、『わたしは自分をさして誓う。あなたがこの事をし、あなたの子、あなたのひとり子をも惜しまなかったので、わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。あなたの子孫は敵の門を打ち取り、また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである』」。”（創世記 22:16～18)．アブラハムがこのように卓越な考えを持って行動するようになった原因がヘブル人への手紙で 11 章にこんなに記録されています．**“この子については、「イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう」と言われていたのであった。彼は、神が死人の中から人をよみがえらせる力がある、と信じていたのである。だから彼は、いわば、イサクを生きかえして渡されたわけである。”（ヘブル人への手紙，11:18,19)**．

１２人の斥候に関する話は考えの違いによって招来される結果の差を非常に対照的に見せてくれます．十人の斥候は神様の考えを受け入れるのを拒否して自分の考えどおり行いました．そして破滅を迎えました．ヨシュアとガレブは自分の無心にして神様の口約束に現われている神様の考えを受け入れました．そして神様の認定を受けたしガナアンを企業で占めるようになりました．

エペソ人への手紙，3 章 20 節に主神様を示して **“どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに、”**と言いました．神様は私たちの祈祷に耳を傾ける一方私たちの考えを察します．実は祈祷は考えを整理して神様に申し上げるのです．だから祈祷と考えが一致しなければなりません．幸せで成功的な生は考えと不可分の関係があります．だから皆さんは何をどう思うはずなのかを念頭に留めおいてください．現在暗くてつらくて困難が多くても皆さんの考えは現実に縛られずに明日に対して所望的な考えを持ってください．変化を思って奇蹟を期待してください．考えは治めなければ悪い方向に流れるのです．

自分の考えを変えることはあまり大変な事ではないです．ただ決断が必要です．聖書にはキリストの中にある聖徒に対して神様がどう思うかを記録しておきました．皆さんは義のある者です．聖なる者です．神霊な者です．愛される者です．富裕な者です．勝利者です．幸せな者です．皆さんはこのような神様の考えにかなう皆さんの姿を思ってください．人に変更させることができない状況というのがあります．生まれた家門，時代，場所，男女の性，遺伝的資質たちは変更することができなく与えられた状況です．このような与えられた条件たちが彼の一生に及ぶ影響は非常に大きいです．ところで自分の決断と選択と努力に変更することができることの中には心の意向があります．この心の考えは与えられた状況をしのぐほどその人の生涯に決定的な重要な影響を及ぼします．死後にまで決定的な影響を及ぼします．

皆さんが現実と未来と永遠な生にまで及ぶ卓越で恵まれた考えを持って生きて行くことができる秘訣があります．それは神様の考えをそのまま受け入れて自分の考えになるようにするのです．**“わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。”（イザヤ書 55:8,9)**．聖徒の皆さんはいつでもどこでも神様の考えによって支配されて変化された卓越な考えで行動しながら生きて行くように願いします．